New Challenge Best Quality

株式会社 大阪チタニウムテクノロジーズ

2020年度　上期決算説明会

2020年11月13日

Ⅰ　2020年度　上期決算実績

Ⅱ　2020年度　通期業績見通し

Ⅲ　新型コロナウイルスの影響と対応

Ⅳ　中長期的な経営戦略

Ⅰ　2020年度　上期決算実績（事業状況）

【全社】

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大が影響し、航空機向け及び一般産業向けスポンジチタンの需要が急激に減退したことからチタン事業の売上高が大きく減少し、全社の営業損失は9億円、経常損失は8億円、また、第1四半期に繰延税金資産を21億円取崩したことから純損失は30億円となりました。

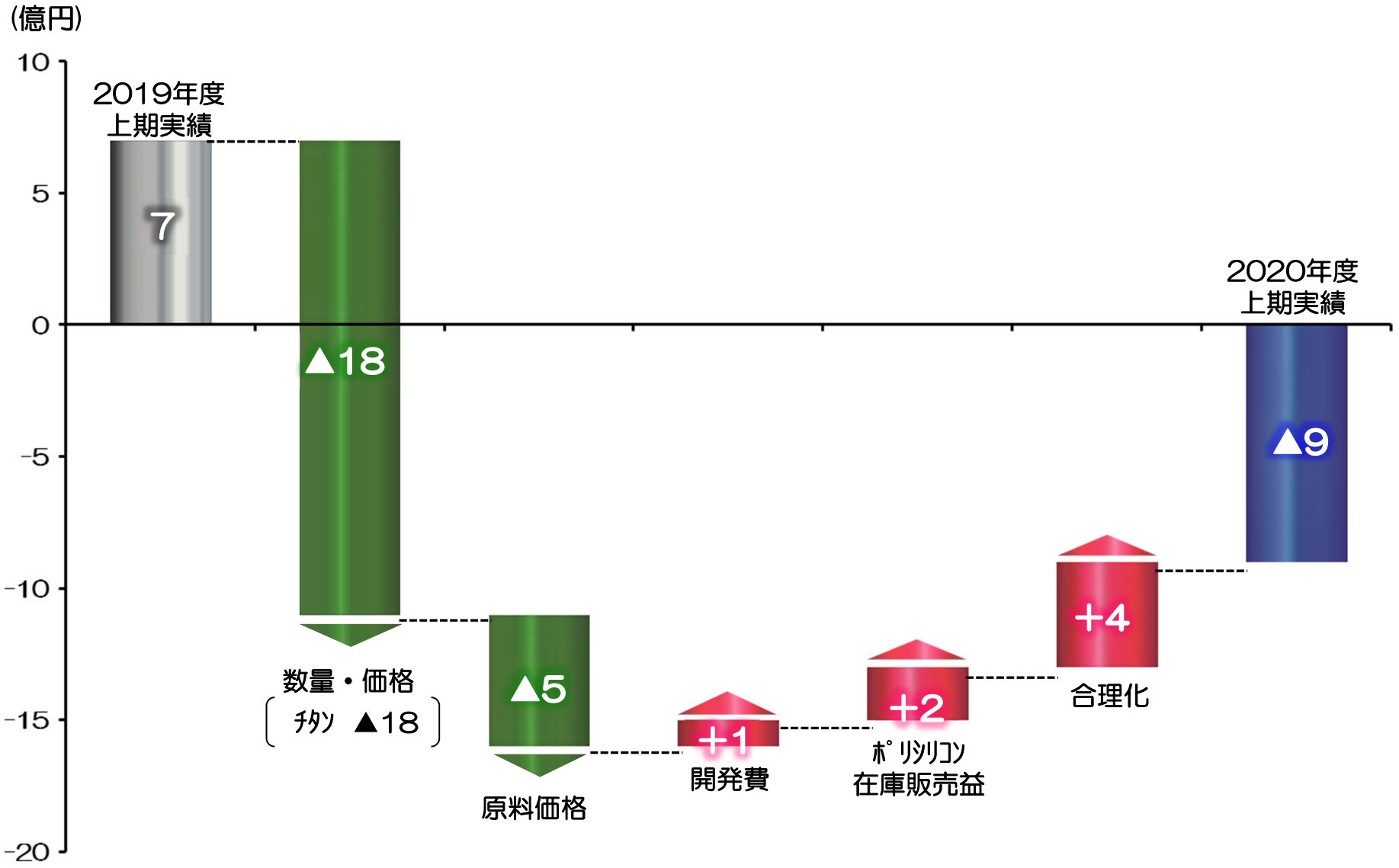
【事業セグメント別】

チタン事業	・新型コロナウイルス感染症の拡大による影響を大きく受け、航空機及び一般産業向けスポンジチタンの需要が大きく減退 ・特に、当第２四半期では、顧客の在庫調整、納期の後ろ倒しが顕著
高機能材料事業	・半導体市場の回復に伴いスパッタリングターゲット材向け高純度チタンの販売数量が増加し、増収・増益 ・球状チタン合金粉末（合金TILOP）の専用工場が完工し、本年９月より本格稼働を開始
その他	・岸和田製造所のﾎﾟﾘｼﾘｺﾝﾌﾟﾗﾝﾄの撤去工事が完了（本年10月末）

Ⅰ　2020年度　上期決算実績（業績概要）

(億円)	2019年度 上期実績	2020年度 上期実績	差異	主な差異要因
売上高	194	83	▲111	チタン売上高減
営業利益	7	▲9	▲16	
営業外損益	▲1	1	+2	為替差　▲3→0
経常利益	6	▲8	▲14	
特別利益	2	-	▲2	受取保険金　+2→0
特別損失	▲1	▲1	±0	
税引前利益	7	▲9	▲16	
法人税等	▲3	▲21	▲18	繰延税金資産取崩し
当期純利益	4	▲30	▲34	
為替レート	109円/$	107円/$		

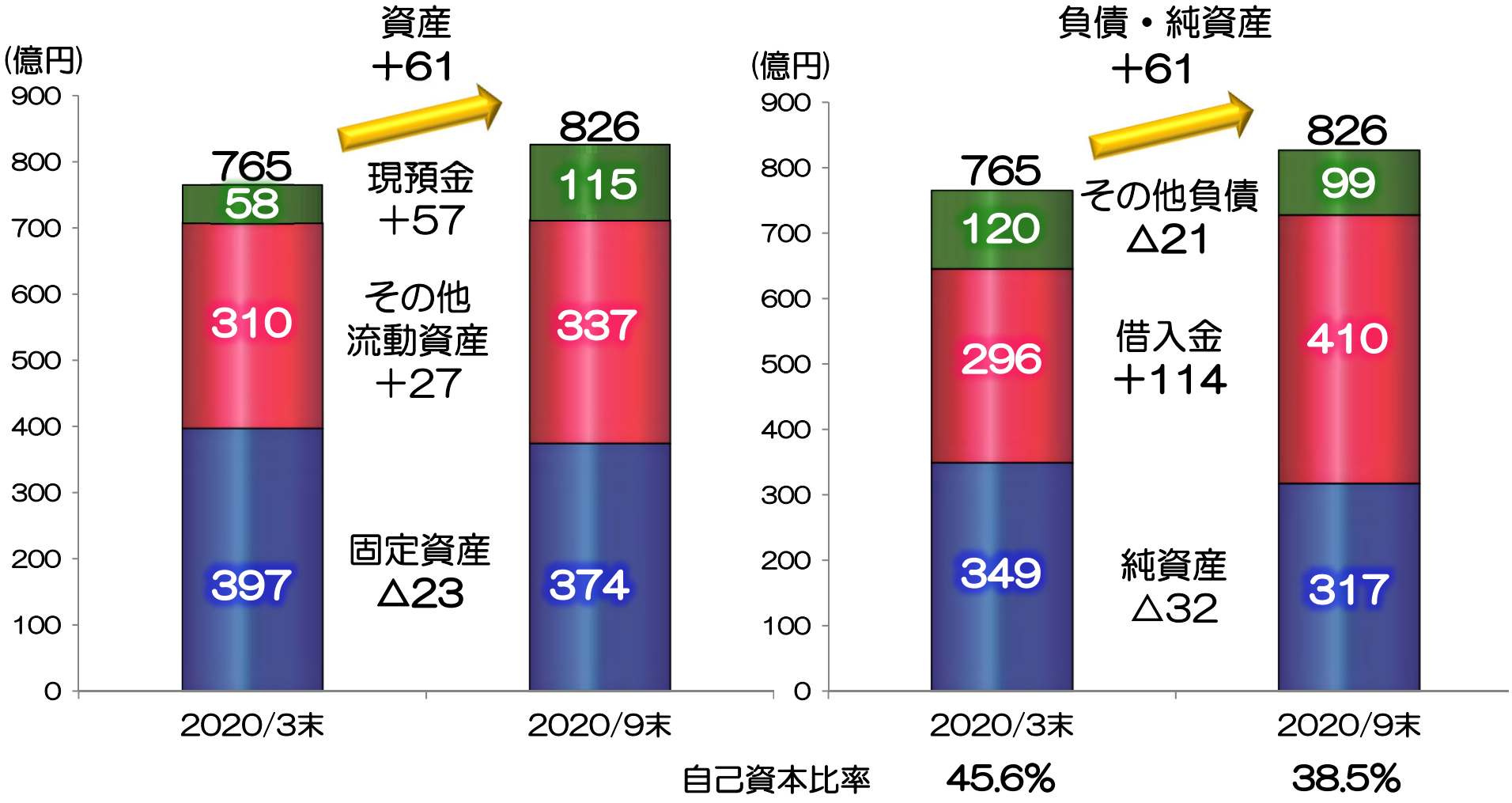
Ⅰ　2020年度　上期決算実績（営業利益増減内訳　対2019年度上期比）



Ⅰ　2020年度　上期決算実績（事業セグメント別業績）

(億円)	2019年度 上期実績 売上高	2019年度 上期実績 営業利益	2020年度 上期実績 売上高	2020年度 上期実績 営業利益	差異 売上高	差異 営業利益
チタン事業	179	7	70	▲12	▲ 109	▲ 19
高機能材料事業	10	0	11	1	＋ 1	＋ 1
その他（ポリシリコン在庫販売）	5	0	2	2	▲ 3	＋ 2
計	194	7	83	▲9	▲ 111	▲16

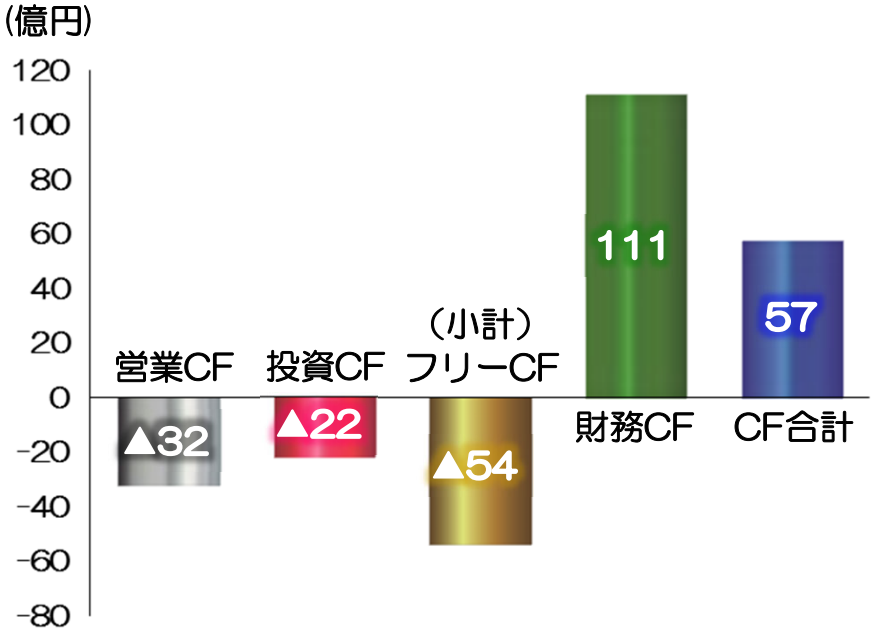
Ⅰ　2020年度　上期決算実績（B/S　対2020年3月末）



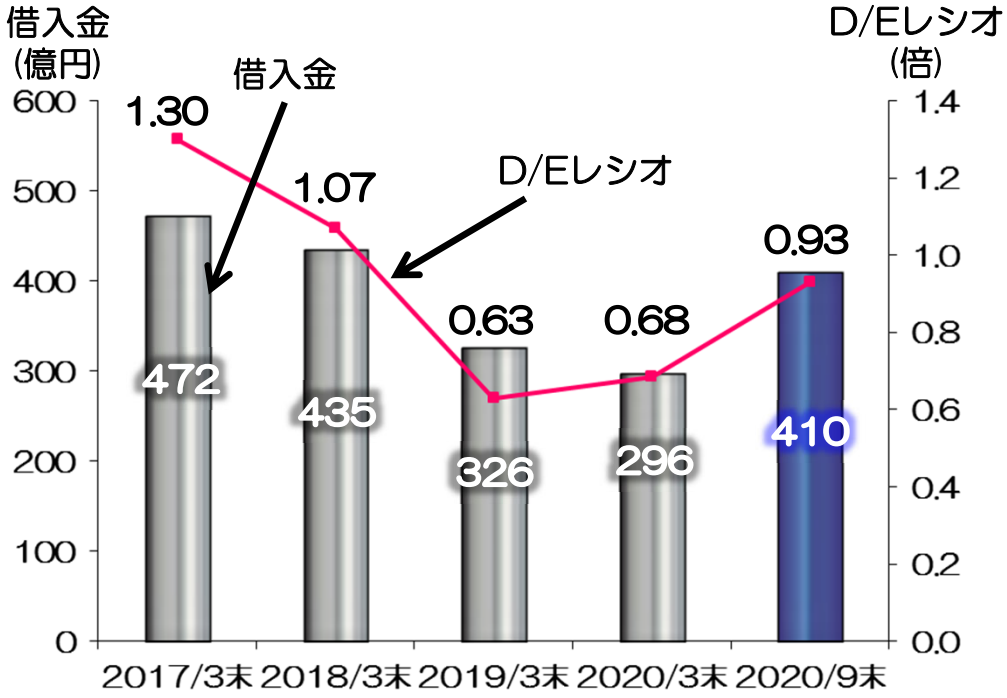
手許現預金の確保を目的に、上期に114億円借入増　⇒　9月末、現預金残115億円

Ⅰ　2020年度　上期決算実績（キャッシュフロー）

2020年度上期CF



借入金残高とD/Eレシオ



Ⅰ 2020年度　上期決算実績

Ⅱ 2020年度　通期業績見通し

Ⅲ 新型コロナウイルスの影響と対応

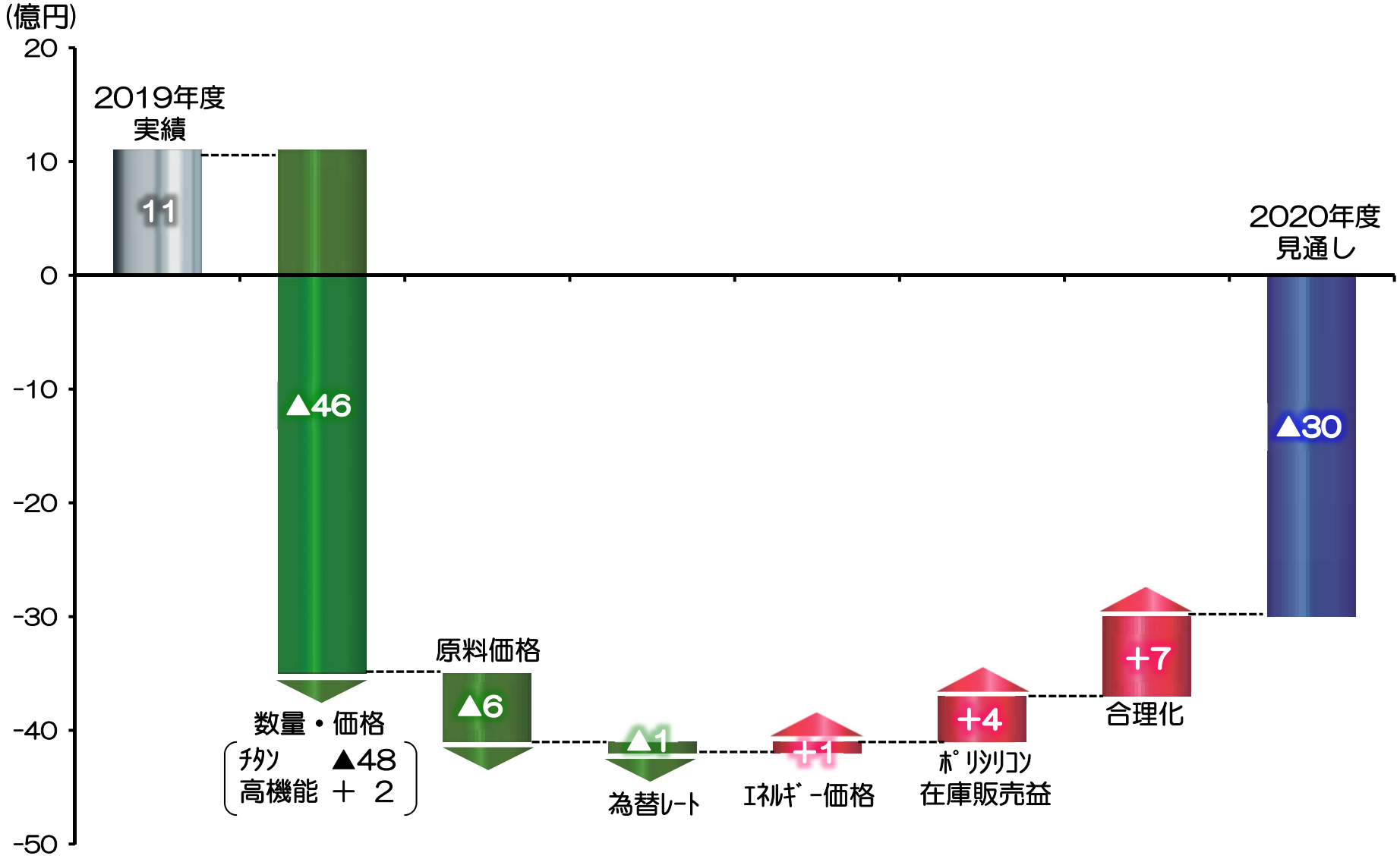
Ⅳ 中長期的な経営戦略

Ⅱ　2020年度　通期業績見通し（全社業績）

前回（8月5日）公表値からの変更はありません

	2019年度		2020年度			差異
	上期実績	通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	
売上高	194	381	83	97	180	▲201
営業利益	7	11	▲9	▲21	▲30	▲41
営業外損益	▲1	2	1	▲1	0	▲2
経常利益	6	13	▲8	▲22	▲30	▲43
特別利益	2	2	–	–	–	▲2
特別損失	▲1	▲2	▲1	1	0	2
税引前利益	7	13	▲9	▲21	▲30	▲43
法人税等	▲3	▲6	▲21	1	▲20	▲14
当期純利益	▲4	7	▲30	▲20	▲50	▲57
為替レート		109円/＄			108円/＄	

Ⅱ　2020年度　通期業績見通し（全社営業利益増減内訳　対2019年度比）



Ⅱ　2020年度　通期業績見通し（事業セグメント別業績見通し）

(億円)	2019年度 実績		2020年度 予想		差異	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
チタン事業	354	12	145	▲35	▲ 209	▲ 47
高機能材料事業	20	0	30	2	＋ 10	＋ 2
その他（ポリシリコン在庫販売）	7	▲1	5	3	▲ 2	＋ 4
計	381	11	180	▲30	▲ 201	▲41

Ⅱ　2020年度　通期業績見通し（中間及び期末配当について）

世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により悪化した当期の業績見通し等を踏まえ、誠に遺憾ながら中間配当及び期末配当(予想)につきまして、実施見送りとさせて頂きます。

	2020/3月期	2021/3月期
中間	0円/株	0円/株
期末	5円/株	0円/株
年間	5円/株	0円/株

Ⅰ 2020年度　上期決算実績

Ⅱ 2020年度　通期業績見通し

Ⅲ 新型コロナウイルスの影響と対応

Ⅳ 中長期的な経営戦略

Ⅲ　新型コロナウイルスの影響と対応（足許の環境変化への取り組み）

取り組み方針

① 新型コロナウイルス感染防止策を徹底しながら生産活動を維持し、
当社ならではの製品や技術を安定的に提供していく

② チタン事業における最適生産体制の早期構築
- 一時的に減退した需要に対応した設備稼働と最適生産体制への移行
- 瞬発力を維持しつつ、要員や保守の見直し等による徹底した合理化によるコスト削減

③収益力向上と需要回復時への準備
- 高い収益性が期待される製品群の拡販とシェア拡大
- 全社的な合理化の徹底による収益力の回復
- 顧客とのパートナーシップの維持・強化の継続
- IT技術の活用促進と特長ある製品の上市加速のための技術開発の継続

④安定的な資金の確保

Ⅲ　新型コロナウイルスの影響と対応（各事業における取り組み）

チタン事業

①航空機用スポンジチタン需要

新型コロナウイルスの影響による航空機需要の急激な減少からボーイング社およびエアバス社は、航空機の大幅な減産を実施中であり、一時的に航空機向けスポンジチタンの需要が大きく減退

②一般産業用スポンジチタン需要

プラント向けや船舶向け等の需要減少に加えて新型コロナウイルスによる世界経済の減速により、一般産業向けスポンジチタンの需要が減退

①顧客およびサプライチェーン全体の動向把握に努めると共に顧客ニーズに即したきめ細かい対応を通じて拡販機会の追求を継続

②減退する需要に対応した最適な生産体制に早期に移行、再稼働を予定していた小型炉は、稼働を延期

③製造コスト、間接コストをはじめコスト全般の徹底した削減

高機能材料事業

半導体用スパッタリングターゲット材向け高純度チタンをはじめ半導体市場の回復に伴って関連製品の販売数量が拡大

①特長ある製品により、今後、回復・成長する半導体市場の増加する需要を着実に捕捉する

②今後、急拡大が期待される３Ｄプリンター向け粉末市場において他社に先駆けて量産体制を構築し、本格事業化を急ぐ

Ⅰ 2020年度　上期決算実績

Ⅱ 2020年度　通期業績見通し

Ⅲ 新型コロナウイルスの影響と対応

Ⅳ 中長期的な経営戦略

Ⅳ　中長期的な経営戦略 （長期的な成長と事業構造の強靭化）

中長期的な経営方針

当面は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う事業環境の急激な変化への対応を優先するものの航空機や半導体分野は中長期的に成長市場として期待

①チタン事業を当社の成長の駆動力とし、事業収益力の回復を図りながら「成長戦略」を加速する

②特長ある製品群を成長市場に投入することで、「事業ポートフォリオの変革」に挑戦し、成長戦略の促進と収益構造の強化を図る

☆半導体・情報市場　⇔　高純度チタン、 $TiCl_4$

☆積層造形市場　⇔　医療、航空機向け球状チタン合金粉末（合金TILOP）

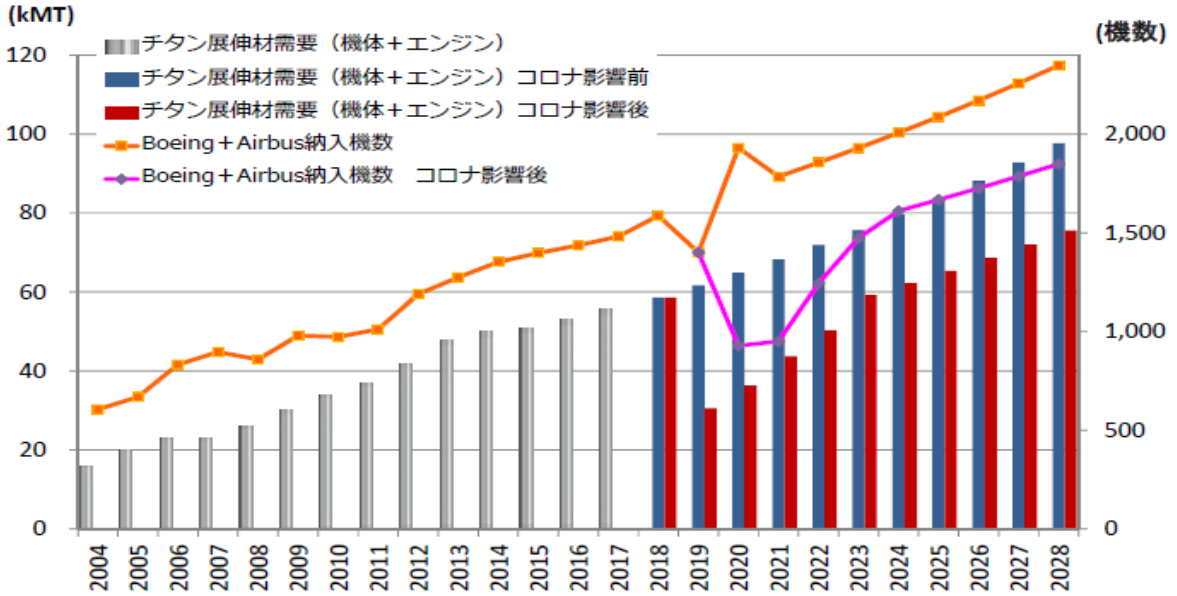
☆Liイオン電池市場　⇔　SiO負極材料

Ⅳ　中長期的な経営戦略 （航空機市場の成長軌道への回帰と最大限の需要捕捉）

チタン事業

①需要に応じた最適生産体制の早期構築と瞬発力の維持
②徹底的なコスト削減・生産性向上による収益力回復
③主要顧客とのパートナーシップ強化による高水準シェアの維持と拡販
④次代に備えた収益構造の変革
- 研究開発体制の充実と生産プロセスの高度化
- 安価で安定した原料調達体制の強化
- 長期的に事業継続可能な水準への販売価格の適正化

欧米民間航空機納入機数と
チタン展伸材需要予測
（コロナ前後）



出所：Airline Monitor 2019.6をﾍﾞｰｽに当社推定

Ⅳ　中長期的な経営戦略 （成長市場を軸とする事業構造の変革への挑戦）

高機能材料事業

①高純度チタンの顧客対応力強化による事業拡大
- 顧客ニーズに対応した特長ある製品の開発と新規需要の開拓
- 技術営業力の強化によるパートナーシップの深化

②球状チタン合金粉末(合金TILOP)の本格事業化
- 合金TILOP専用工場の戦力化
- 製販技一体推進体制による拡販の加速
- 継続的なプロセス開発、製品差別化による競争力の強化

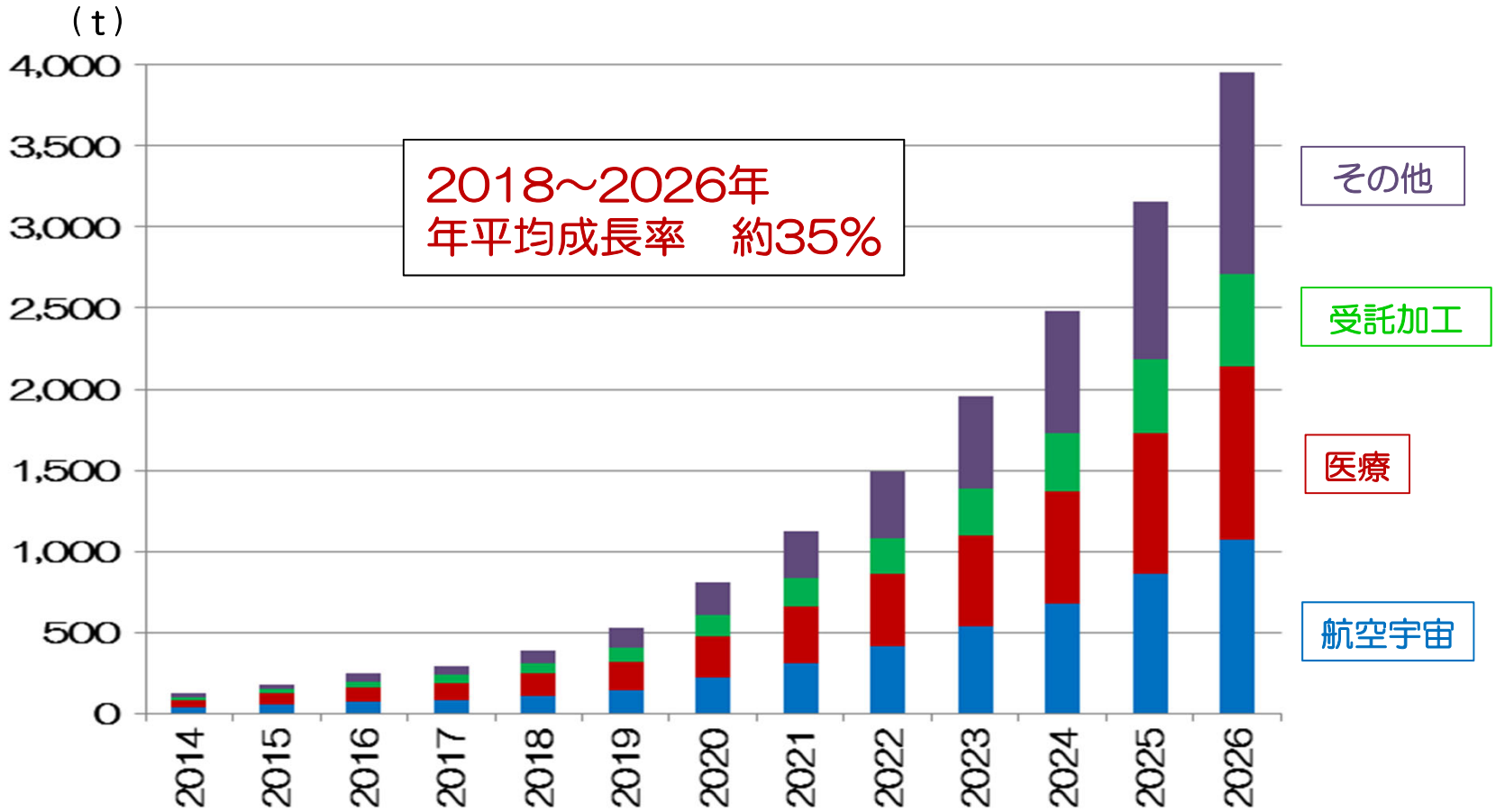
＋

新規事業

③高品質メニュー創出に向けた取り組みの継続
- リチウムイオン電池用SiO負極材料の開発等

Ⅳ　中長期的な経営戦略 （積層造形用チタン粉末の需要予測）

世界の積層造形用チタン粉末需要予測



出所　：　SmarTech Publishing

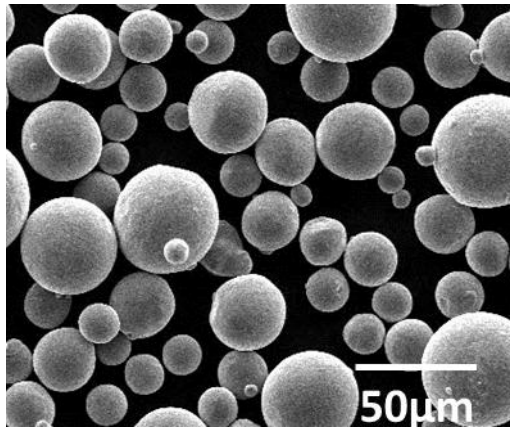
Ⅳ　中長期的な経営戦略 （球状チタン合金粉末の専用工場の本格稼働）

積層造形（３Ｄプリンター）向け需要の急拡大が期待される球状チタン合金粉末（合金ＴｉＬＯＰ）の専用工場を建設し、本年９月に本格稼働を開始

＜合金ＴｉＬＯＰ専用工場の概要＞

- 設備投資額　：約１０億円
- 生産能力　　：１００トン／年
- 建設場所　　：当社尼崎工場内
- 品質管理　　：航空宇宙用品質マネジメントシステム対応
  ＜JIS Q 9100(AS9100)認証取得：2019年12月＞

合金ＴｉＬＯＰ専用工場

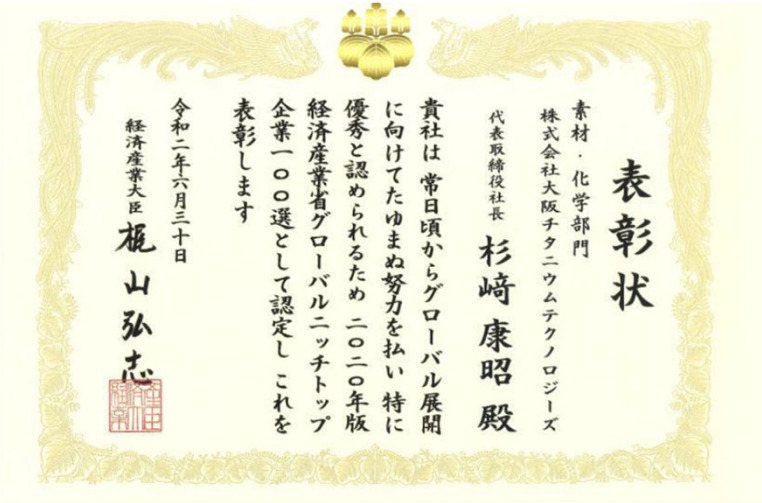


合金ＴｉＬＯＰの拡大画像

Ⅳ　中長期的な経営戦略 （グローバルニッチトップ企業100選に選定）

当社は2020年6月、経済産業省より2020年版「グローバルニッチトップ企業１００選」に選定されました。

当社は、主力製品である「スポンジチタン」において、世界有数の生産能力を保持し、世界で数社しか製造できない高い信頼性を求められる航空機エンジン向けをはじめ、化学プラントや一般産業用等、多岐の分野に製品を提供しており、独自技術の開発とノウハウの蓄積により質・量ともにスポンジチタンのトップメーカーとして評価され、今回の選定に至りました。


表彰状

素材・化学部門
株式会社大阪チタニウムテクノロジーズ
代表取締役社長
杉崎康昭殿

貴社は常日頃からグローバル展開に向けてたゆまぬ努力を払い特に優秀と認められるため二〇二〇年版経済産業省グローバルニッチトップ企業一〇〇選として認定しこれを表彰します

令和二年六月三十日
経済産業大臣
梶山弘志

経済産業省

2020 GLOBAL NICHE TOP 100

2020年版
経済産業省グローバルニッチトップ企業100選

OSAKA Titanium technologies Co.,Ltd
株式会社大阪チタニウムテクノロジーズ

Presented June 30, 2020

Hiroshi Kajiyama
Minister of Economy, Trade and Industry

経済産業大臣
梶山弘志

終了

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき、当社が判断した予想であり、不確定要素を含んでおります。このため、様々な要因により、実際に生じる結果が予測内容と異なる可能性があることをご承知下さい。本資料利用によって生じるいかなる結果につきましても、当社が責任を負うものではありません。